



# 短期大学部保育科 卒業生のライフコース vol.1

短期大学部保育科では、オープンキャンパスで卒業生に公開インタビューを行い、保育の魅力を伝えるプロジェクト「短大卒のライフコース」を、2022年度より実施しています。保育科の卒業生は、保育の学びを自ら発展させて、創造的な人生を切り開いています。その多様性に触れ、保育からはじまるあなた自身の将来を展望するきっかけとなれば幸いです。本誌vol.1では、2022年度オープンキャンパスでのEpisode1, Episode2, 2023年度オープンキャンパスでのEpisode3を収録し、お届けします。



## Interview01

### 飯野真希さん

2021年度 卒業

松の実保育園保育士

静岡県立富士高等学校出身

現場に出て働くことで得るものが沢山ある  
短大を選んで良かった！

#### Q1.短大を選んだ理由

好きなこと(子ども,歌,運動など)を活かせる仕事に繋がる大学を選びました。「4年制に通う学生より学ぶ期間が少ない」と焦る想いもありましたが、「同級生が就職する頃には、私は既に社会人としての経験を2年も積んでいる！」とポジティブに捉えることができました。現場に出て働くことで得るものが沢山あるので、短大を選んで良かったと感じています。

#### Q2.短大生活で印象に残っている授業は？

特に印象に残っているのは『レクリエーション論』の授業です。朝霧の自然の中で、子ども達と一緒に野外調理やキャンプファイヤーを行いました。探検中に集めた乾いた木々で火起こしをしたり、時には台風のような大雨の中で活動したりと、天候や気温に左右されることもありましたが、そのおかげで状況に合わせて対応しようとする力が身に付いたと思います。

#### Q3.実習ではどんなことが心に残っていますか？

実習では、活動に向けて素材研究をする大切さを感じました。私が5歳児クラスの部分実習で行ったのは、スクラッチという活動です。事前に自分自身が試すことで、「画用紙を全てクレヨンで塗りつぶすには根気が必要で、達成感を味わえるんだ」とか、「花や動物などの絵だけではなく、線の太さの違いや模様を楽しんだり、文字を描きたいと思う子もいるだろうな」とか、様々な子どもの姿を想定した上で実践することができました。

#### Q4.現在のお仕事について

5歳児クラスの20人を2人担任で見えています。やりがいを感じるのは、子ども達から「もう一回やって！」「またやりたい！」と言ってもらえた時です。最近だと、わらべうたなどの手遊びや、にじみ絵で制作をした時、広告紙

で紙鉄砲を作って遊んだ時など…。自分が実践した活動を楽しんでもらえたのだなぁと実感できます。

難しいと感じているのは、子どもへの指導をする時です。子どもの気持ちを受け止めつつも、良くないことの判断や危険なことについてはしっかりと伝える必要があるのですが、どんな伝え方をすれば良いのか？どこまで子どもの欲求に応じてあげられるのか？と悩むこともよくあります。去年担任をしていた先輩保育士に話を聞いたり、前年度の保育記録を読んだりしながら、その子に合った支援ができるように情報を集めています。

#### Q5.短大での学びが活かされていると思うこと

短大で繰り返し学んだのは、PDCAの大切さです。PDCAとは、「計画を立てる→実際に試す→考察をして改善点を見つける→次の計画に繋げる」というサイクルのことです。短大の授業では、『子どもの運動遊び』『保育内容研究(表現)』『子どもの音楽』など、計画した活動を実践する機会が沢山あります。同じ活動でも、何歳とやるのか、何人でやるのか、どこでやるのかなどによってアプローチの仕方が変わってきますし、先生や同級生からのコメントは気づきを得るヒントになります。



#### Q6.保育の道を目指す高校生へメッセージ！

進路選択で悩んでいる人もいますが、色々な大学を調べた上で、それでも最後に常葉短大の保育科を選んでもらえたらとても嬉しいです。沢山の後輩が入って、一緒に働く仲間となってくれることを楽しみにしています。頑張ってください！



## Interview02

### 上野友莉さん

2021年度 卒業

羽鳥るり幼稚園 保育教諭

常葉大学附属橘高等学校出身

大好きな子どもたちとの毎日が楽しい！  
子どもが好きという気持ちを大切に

#### Q1.短大を選んだ理由

実践的な授業が多く、2年で集中的に学び、現場で経験を積みたいと考えたからです。

#### Q2.短大生活で印象に残っている授業は？

『障害児保育』の授業では、障害を知り、障害の捉え方を改めて考えることができました。『特別支援教育』の授業では、特別支援の内容を考え、自分の保育観を深めることができました。

#### Q3.入学前に不安だったことはありますか？

私はピアノが本当に弾けなかったので、とても不安でした。でも、ピアノの授業では個人レッスンがあり、一対一で教えてもらったり、自分でも練習したりして、少しずつできるようになり、今は弾けています。

#### Q4.短大生活で大変だったことはありますか？

短大生活で大変だったことは、そんなになかったなと感じているのですが、強いてひとつふたつ言えば、コロナウィルスの流行下だったので入学してから6月まで大学には一切行けず、友達にも会えず、慣れないオンライン課題に取り組まなければならなかったことです。もうひとつは、実習と試験の時期が近いときには、実習準備と試験勉強との両立が難しいなと感じていました。

#### Q5.アルバイトはしていましたか？

はい、飲食店をふたつ掛け持ちしていました。短大保育科は忙しいとは思いますが、実習前で準備が大変なときにはシフト調整をして頂いたりなど、アルバイト先の方が配慮してくださったので続けることができました。

#### Q6.実習で印象に残っていることは何ですか？

初めての教育実習で緊張していたときに、保護者の方が「子どもが先生のこと大好きって、いつも家で話しています！」と話しかけてくださったことです。とても嬉

しかったですし、その後の実習で大変なことがあったときも、心の支えになりました。

#### Q7.現在のお仕事について教えてください

3歳児の担任をしています。私は幼い頃から、保育者になることが夢だったので、可愛い子どもたちと過ごす毎日の保育のすべてが楽しいです。ひとりひとりに合わせた保育をしていく中で、集団生活との一貫性を持たせることを難しく感じています。

#### Q8.短大での学びが活かされていると感じることは

2年生のときの教職実践演習で、ねらいや目的、準備物等を全て自分たちで決めて計画・実行した経験が、週案や日案を書く上で活かされています。私たちのグループは、キャンプや動物園での活動を行いました。計画通りに行くことばかりではなく、いろいろなパターンを想定して活動を考えるということが身に付きました。

#### Q9.短大の友達とのつながりについて

短大の友達とは、今も頻りに連絡を取り合っています。大変なことも楽しいことも、一緒に乗り越えてきた仲間からこそ、短大の友達は私にとって本当にかげがえのない存在です。先日も、短大の友達6人で、バーベキューをしてきました！

#### Q10.保育を目指す高校生へのメッセージ

子どもが好きだけでは保育者になれないと、自分で思ったことも、誰かに言われたことも、あったかもしれませんが。私はまだ現場に出て4ヶ月ですが、子どもが好きだけでは難しいと思うことも確かにあります。しかし、私が今こうやって保育ができているのは、可愛い大好きな子どもたちがいるからです。なので、皆さんが持っている子どもが好きという気持ちや、保育者になりたいという気持ちを大切に、短大生活を頑張ってください！



## 03 Interview

### 鳥羽智史さん

放課後等デイサービス  
かぶとむしクラブ 室長  
2007年度 卒業

「困った」は、「ありがとう」に変えられる！  
子どもの声に寄り添うことが大事

#### Q1 かぶとむしクラブについて教えてください。

かぶとむしクラブは、児童福祉法に基づく放課後等デイサービスの事業で、障害を抱える小学1年生から高校3年生までのお子さんをお預かりしています。児童クラブと大きく違うことは、利用者一人一人の個別支援計画を作成し、それに沿って日々の支援に当たることです。かぶとむしクラブでは、いろいろなバックグラウンドの人が、子どもたちに関わっています。例えば、保育士資格を持っている人、幼稚園教諭免許や教員免許を持っている人。資格は持っていないんだけど「子どもに関わる仕事で一生懸命働きたいよ」という人もいます。その他、水泳、バスケ、サッカーなど、いろいろなスポーツをやってきた人も、いっぱいいます。

#### Q2 かぶとむしクラブ設立の経緯は？

かぶとむしクラブを設立する前、私は私立保育園に4年間、公立保育園に4年間、保育士として勤務をしていました。公立園で加配保育士として障害のある子たちを担当したとき、その子たちを含めて「障害のある子たちが社会に出ていくときに生きにくい社会じゃ駄目だろう。何かできないかな。」と思い、かぶとむしクラブを設立しました。

#### Q3 発達支援にかかわる人に求められることは？

私は、「子どもの声にどれだけ寄り添ってあげられるかな、ただ子どもの声を聞くだけじゃなくて、今その子が何を思っているのかな、何を考えているのかな、何を思って行動しているのかな。」というのを、しっかりと見ることを大事にしています。そして何よりも、子どもたちとの信頼関係というのが大切です。現場では、一人一人の子どもたちの障害が違い、大変なところもいっぱいありますが、一人一人をしっかり見てあげることで、寄り添える支援者になっていけるんじゃないかなと思います。

#### Q4 短大時代は、どんな学生でしたか？

自分が短大に入ったときは、保育士を目指す男性が少ない時代でした。当時、常葉大学短期大学部保育科には男子学生が3人しかいなくて、周りが女性ばかりで圧倒されていたというのが本音です。ですが、3人ともスポーツ経験者で、体を動かすのが好きということで意気投合し、授業の空き時間は、体育館でバスケをやったりとか、サッカーをやったりとかして、よく遊んでいました。一方で、授業の課題（造形等）では家に集まり、3人で楽しく作業をしていた思い出があります。また、男性保育者の先輩や専攻科の先輩たちとのつながりもあり、楽しい日々を過ごしていました。

#### Q5 保育の道を目指す高校生にメッセージ！

これから保育者を目指す学生のみなさんは、「これでいいのかな」と思うことって、多分たくさんあると思うんです。そのときは、もう、大いに迷ってください！一度立ち止まって、「本当にこれでいいのかな」というのを考えてみてください。また、学生のうちにいろんな体験をしてください。ボランティアでもいいし、実習でもいいし、バイトでもいい。いろいろな体験をすることで、いろいろな価値観がついてくると思います。そして何よりも、自分の意見を大切にしてください。周りに合わせるということだけがいいわけではありません。「自分はこんなこと言っているのかな」と思うかもしれませんが、どんどん言ったほうがいいと思います。だからといって言い過ぎもよくないんですが、常にいろんなことを考える癖をつけることでいろいろなことが見えてくるかなと思います。

今の自分が、かぶとむしクラブで大切にしている理念は、「静岡の困ったをありがとうに」ということです。皆さんも自分の道を信じて頑張ってください、応援しています。



## 04 Interview

### むらまつけーじさん

絵本作家

2005年度 保育科 卒業

2007年度 保育専攻科 卒業

子どもたちと一緒に、自分自身も夢へと  
チャレンジしていこうと思い、絵本作家に

### Q1 幼稚園教諭から絵本作家になった転機は？

僕は年長児の担任をしていることが多くて、8年間のうち年長が6年。年長にもなるとできることが増えますよね。例えば逆上がりとか、楽器を弾くとか、チャレンジする場面が多いと思うんですけど、なかなか最初からできる子ってのはいなくて。子どもたちには「チャレンジすること」「コツコツやれば、必ずできるようになるよ」ということを、言葉として伝えてはいたんですよ。でも、じゃあ自分は何かにチャレンジしてるか、自分は何かに頑張っているかなって思ったときに「言ってる先生が、何もチャレンジしてない」と。先生として年数を重ねていくうちに、マンネリ化してしまったり、その環境に漬かってしまったりっていうところがあったので、これはちょっといけないなと。そういうことがありまして、最後に受け持った年長児たちと一緒に卒園をして、僕自身も一から夢に向かって、子どもたちと一緒にチャレンジしていこうっていうふうに思ったのが、一つのきっかけにはなっているかなと思います。

### Q2 生きている証 生きていることと表現とは

生きること、表現すること、なかなか難しいですね。まず生きてなければ表現することもできないと思っているので、前提としては「生きる」というのはとても大事なことだと思います。自分の表現の仕方って無限にあるとは思ってて。だけど人生って、やっぱり有限で、その部分で言ったら本当に何かあるかわからない。もしかしたら僕が明日、事故にあっって死んでしまうかもしれないし。なんかそういうことをいろいろ考えたときに、何か残したいって思ったんですよ。ここに生きていたんだぞ、むらまつけーじが生きていたんだぞっていう証を残したいなと思って。それを考えたとき、自分は絵本っていう形、自分の作品っていう形でそれを表現したいなっていうのがありました。僕が表現したことによっ

て、それを見てくれる人が笑顔になってくれたり、僕の作品を見てくれた人がほっこりした気持ちになってくれたり、描いた絵本がそういう思いを届けられるようになってくれたらうれしいと思っていますね。

### Q3 保育も絵本作家も、常に成長できる仕事

保育も、絵本作家も、常に成長できるっていうところが一番のやりがいかなというふうに思っています。僕は、本当に子どもが好きで保育の道に入ったので、子どもとの関わりっていうのは仕事を変えても続けていきたいと思っていました。幼稚園の先生は辞めたけれど、今はその思いが形になって、しっかりと子どもと関わる仕事ができているっていうのは、なんかすごく自分にとってもうれしいし、やりがいがあるなと思っています。

### Q4 保育の道を目指す高校生にメッセージ！

保育をするにあたって本当に大事なものは、自分も一緒に成長していくってことだと思うんですよ。本当に保育っていうのは奥が深いし、宝探しみたいに掘れば掘るほど、いろいろな楽しみが出てくるので、本当にすてきな仕事だと思います。何より子どもたちの成長に携われるっていうのが、すごく魅力的なことだと思うので、楽しんで、子どもと一緒に成長していったほしいなと思っています。



## 保育科1年生がインタビュー

# 教えて！先輩のライフコース

6月10日のオープンキャンパスでは、在学生の2名が静岡学園幼稚園にお勤めの卒業生をゲストに、インタビューを行いました！対談の一部を紹介します

### Q1 先輩方の学生生活について教えてください。

**高辻：**私自身も短大生のときには、実習等が重なると、少し忙しいかなっていうふう感じたこともありましたけれども、私自身は普通にバイトもしていて、バイト仲間と一緒にディズニーランドに行ったりだとか。サークルでは、週に一度バスケットボールをして、楽しく過ごしていました。同じクラスになった友達と、毎日同じ授業を受ける中で、だんだん仲良くなって、「今日はお弁当一緒に食べようね」、「いいよ」、「きょうは芝生で食べてみる？」なんて話をしながら、キャンパスには芝生もあるので、そこでみんなでご飯を食べたりとか。とても充実した学生生活を送っていたように感じます。

### Q2 先輩方の「実習」について教えてください。

**銚田：**初めての实習だとすごく緊張して、どうやって子どもと関わったらいいのかなとか、そういう不安もあるかと思えます。幼稚園の先生とか保育士って、経験ありきの仕事だと思っているので、実習で学んだことをすぐ学校に持ち帰り、またすぐ実習に出られるっていうのは、短大だからこそこできることかなって思っています。短大では、1年生のときも2年生のときも、実習がぎゅっと詰め込まれているんですけど、学んだことを記憶に新しいまま、また学ぶことができ、また実習に行くことができるのがよかったなって私も思っています。ちょうど昨日まで短大の実習生が幼稚園にも来ていたんですけど、すごく楽しかったとか、子どもたちとお別れするのがすごく寂しかったですって言ってくれる実習生さんが多くて。幼稚園の先生の仕事の楽しさが分かってよかったなって私も思いました。実習はちょっと緊張するかもしれないけど、後から振り返ると、案外楽しいものだと思います。

### Q3 短大卒は不利かも？…と思うと心配です。

**高辻：**自分自身は、本当に短大を選んでよかったと感じています。短大卒業生のほうが、いろんなことを早く体験し、たくさん吸収することができるのかなっていうふうに、個人的には感じています。（就職して）実際に実践をして、「体験」したことが「経験」となってくる…もちろん失敗もたくさんしちゃうと思うんですけど、そこからたくさん吸収して学んだことを「経験」として生かすことができたので、短大にしてよかったと思っています。

私が4年目の時に、同い年の先生とペアになりました。ペアの先生は4年制大学を卒業されていたので2年目でした。その時に、2年間の「経験」の差を感じる場面がありました…例えば、「こういう保育をしたら、こういうふうになるな」っていうのを私は何となく想像できたとしても、ペアの先生は（経験の蓄積がまだないために）その予測ができない、とか。そんなとき、短大を卒業してから自分が実践してきた保育や援助のひとつひとつが、ずっとキャリアとなって積み重なっているのだと感じ、短大を卒業してすぐに現場に出てよかったと思っています。

**銚田：**四大卒の先生も入ってきて、いろいろ比べることが多いんですけど…。四大卒の先生と比べると、同じ年齢でもお給料の差とか出ちゃうんじゃないかなって心配になる方もいらっしゃると思いますが、実際にはお給料は年々上がっていくものですし、同じ年の人とお給料を比べたときはそんなに差もないです。むしろ、短大卒で早く経験を積んだ人のほうがもらってるかも…と感じるところもあります。保育は経験ありきの職業、2年間学んですぐ現場に出たほうがいいなって思うので、短大のほうが私もいいかなって思います。

## ☆ゲスト☆



### 高辻栞理さん

2018年度 卒業  
静岡学園幼稚園 保育教諭  
静岡県立清水西高等学校出身



### 鉾田千晴さん

2017年度 卒業  
静岡学園幼稚園 保育教諭  
静岡県立静岡西高等学校出身

## ☆インタビュー☆



### 小山実杏さん

常葉大学短期大学部 1年  
常葉大学附属常葉高等学校出身



### 大石優花さん

常葉大学短期大学部 1年  
静岡県立浜北西高等学校出身

### Q4 園ではピアノをどのように使っていますか？

**高辻:** 私たちの幼稚園では、朝の会や帰りの会に、朝のお歌、帰りのお歌を歌うときにピアノを弾いています。また、季節が感じられるように、今ですと、『かえるのうた』や『かたつむり』など、その季節のお歌を歌っています。こうしたお歌は、ピアノを弾いて、実際に教えています。私自身も学生時代は、本当にピアノが苦手でした。自分自身が工夫してやっていることとしては、楽譜どおり弾かなきゃいけないというふうに思わなくてもいいのかなと感じていて、自分なりに弾きやすい音に変えてみたりとか、難しいところは和音だけにしてみたりとか、そういう工夫をしています。一番大切なのは、子どもたちが歌いやすい、楽しいってことが感じられることです。園では、ピアノは毎日弾くものなので、焦らなくても、毎日の積み重ねが大事だと思います。

### Q5 制作活動は、どのように行っていますか？

**鉾田:** 子どもの意見から制作を始めることが多いです。先日、雨が続いた日に子どもたちが、「きょうは雨だから雨を作りたい」って言っていたので、雨を作りました。大人がネガティブに捉えてしまう雨でも、子どもたちにとっては本当に楽しい雨だったりして…。つなげると風が吹いたら動いたり、すてきな制作になりました。私は短大の図画工作の授業でまとめた教材ファイルを、今でも幼稚園で使っています。授業で作ったものをファイルしたのですが、そのひとつを年長さんに見せたら「やってみたい！」って言ってくれました。短大の授業が活かされてよかったと思っています。



### Q6 最後に、メッセージをお願いします！

**高辻:** 子どもたちの成長を間近で感じることができるというのが保育者の魅力であり、またやりがいだなというふうに感じています。以前2歳児で受け持った子どもたちが、今は年中になっていますが、その子たちが2歳児を見て「最初、俺たちもこんなふうだったよね、僕たちもこうだったよね、泣いてたよね、上靴履けなかったよね…」なんて振り返っていたり、すっかりお兄ちゃんとなって私の手伝いをしてくれたりとかする姿に、すごく成長を感じています。また、私自身は「先生のおかげでこんなことができるようになりました」、「こういう成長も見られてうれしいです」、って声を掛けてくださる保護者の方の言葉にすごく支えられていて、このお仕事のやりがいや楽しさを感じることができています。私たちも現場に出ると、これから保育者を目指す方にお話しする機会がないので、今日こうしてお話しさせていただいて本当によかったです。ありがとうございました。

**鉾田:** 私は今、年長児の担任をしています。年長さんは幼稚園にも慣れていて、すごくいろんなことを言うんですけど、一つ一つの発言が本当に面白くて、毎日友達と一緒にいるような感覚で仕事をしています。実習生さんが来ると、子どもたちは若い先生が大好きなので、「先生じゃなくてお姉さん先生がいい！」とか言われちゃったりするんですけど…。子どもと一緒に過ごすといろんなことがわかって、子どもたちの発想ってすごく素敵で、同じ一日がなくて、いつも毎日本当に楽しい生活を送っています。私にとって、短大で同じ目標に向かって頑張ってきた友達は、今も大切な存在です。同じ目標に向かって人が周りにいるっていうのは、大切になって実感しています。本当に楽しい短大生活だったなって、今振り返ると思います。ありがとうございました。



常葉大学短期大学部

TOKOHA UNIV. JUNIOR COLLEGE